妙法寺だより

今を生きる智恵と勇気ともに学び歩むお寺

vol.254
年末年始号
12
2023 WINTER
季刊誌2023年12月発行

・新年のご祈祷会
・新春お笑いライブのご案内
・大晦日
・最近のあれやらこれやら
・ご寄付のご案内／浄心道場のお知らせ

コラム「住職のCoffeeTime」その遺言守りますか？

大祈祷会

令和6年1月7日（日） 14：00～

安穏なる一年となるよう　共に祈りを捧げましょう

令和6年の御祈祷会は、正月7日（日）午後2時より開催します。年末年始には神仏やご先祖様に令和6年の健康と安泰を祈りにご家族揃ってご参拝ください。ご祈祷会の前には新年の福笑いのお時間も準備しております。ぜひ皆さまでお楽しみください。

◆正月特別奉安　開運大毘沙門天

ご祈祷会の前にはお笑い大好きな住職が新年の福笑いを皆さまにお届け！

令和6年妙法寺新春お笑いライブ

13時より

御札のお申込みは年内までに

※申込書には、記号でご記入ください。
※具体的なご祈願をご希望される方は、「祈願内容」の欄にお書きください。内容を考慮しご祈願致します。

A、家内安全	家族が円満に過ごせますように	
B、身体健全	健康で過ごせますように	
C、交通安全	交通の災難に遭いませんように	
D、當病平癒	病が治りますように	
E、商売繁盛	商売が繁盛しますように	
F、事業繁栄	事業が栄え成功しますように	
G、社運隆昌	会社が栄えますように	
H、学徳増進	勉強ができますように	
I、合格成就	志望校に合格できますように	
J、発育増進	お子様が元気に育ちますように	
K、心願成就	心に秘めた願いが叶いますように	
L、除厄開運	厄を除き幸運に恵まれますように（厄年の方の厄除け祈願）	
M、夫婦円満	夫婦が仲良く過ごせますように	
N、安楽産福子	元気な子供が産まれますように	
O、寿命長遠	元気に長生きできますように	

特別祈祷	１５，０００円	（大きな御札）
一般祈祷	３，０００円	
車両守札	３，０００円	

（同申込者は２台目以降は一台につき２０００円）

厄年早見表

女性

数え 19 歳
前厄　平成 19 年生
本厄　平成 18 年生
後厄　平成 17 年生

数え 33 歳
前厄　平成 5 年生
本厄　平成 4 年生
後厄　平成 3 年生

数え 37 歳
前厄　平成元年生
本厄　昭和 63 年生
後厄　昭和 62 年生

数え 61 歳
前厄　昭和 40 年生
本厄　昭和 39 年生
後厄　昭和 38 年生

男性

数え 25 歳
前厄　平成 13 年生
本厄　平成 12 年生
後厄　平成 11 年生

数え 42 歳
前厄　昭和 59 年生
本厄　昭和 58 年生
後厄　昭和 57 年生

数え 61 歳
前厄　昭和 40 年生
本厄　昭和 39 年生
後厄　昭和 38 年生

◆12月30日～1月7日まで墓参用のお花を販売しております。

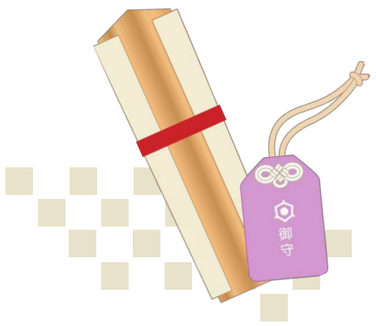
年末のお墓参りでは、ご先祖様に一年の無事への感謝の気持ちを伝え、年頭の始めには今年一年の安泰を祈りお参りしましょう。

1対　　1，500円（お線香付）
1束　　750円

※数に限りがありますので、在庫状況などはお問い合わせください。

古いお札 正月飾りお焚き上げ

昨年の古い御札や御守、お正月飾りのお焚き上げの品は受付にお持ちください。お飾りについている燃えないものはお焚き上げ出来ませんのでご遠慮ください。



初詣

妙法寺では大晦日から正月の三箇日は、本堂を開放し初詣の皆さまの参拝をお受けしています。本堂正面には南北朝時代より祀られます〝勝負の神様・開運の神様〟である「毘沙門天王」を特別奉安しております。また、受付にて「御守」や「おみくじ」なども販売しております。年頭にあたり、ご自身やご家族、ご友人の一年の安泰をお祈りにお越しください。

大晦日

御守

妙法寺の特製御守は内符に願いや名前などを書いて身につけることが出来るため、自分自身への祈りだけではなく、家族や友人へ想いを込めて贈る方も。神仏の功徳と共に祈りを受け取り、生きる力を得ることができるのではないでしょうか。新年のご祈祷会でも販売いたします。

俺の私の一文字

おみくじ

除夜の鐘

お出汁

午後11時	歳末報恩会 本堂
午後11時半	除夜の鐘 開始
午前 0時	新年祝祷会 本堂

※受付は12時30分に終了いたします。
※例年混雑しますのでお早めにお越しください。

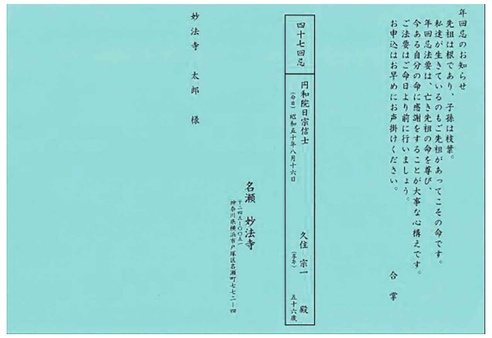
◆令和六年　年回忌表

一周忌	令和	五年
三回忌	令和	四年
七回忌	平成	三十年
十三回忌	平成	二十四年
十七回忌	平成	二十年
二十三回忌	平成	十四年
二十七回忌	平成	十年
三十三回忌	平成	四年
三十七回忌	昭和	六十三年
四十三回忌	昭和	五十七年
四十七回忌	昭和	五十三年
五十回忌	昭和	五十年
百回忌	大正	十四年

◆来年の暦を同封しました。ご活用ください。

◆年回忌のお知らせを同封します

来年、年回忌に該当される方に「年回忌のお知らせ」を同封致しております。ご確認ください。希に古い字などで誤植がある場合がございます。その際には、お手数ではありますがご連絡をお願いします。



年回忌のお知らせ

先祖は根であり、子孫は枝葉。
私達が生きているのもご先祖があってこその命です。
年回忌とは先祖を想い命を尊び大切にする日です。
今あなたの命に感謝をすることが大事な心構えです。
ご法要はご命日より前に行うのが良いとされています。
お申込はお早めにお声掛けください。

合掌

四十七回忌

円和院日宗信士
（俗名　昭和五十年八月十六日）

大住　宗一　殿
（享年　五十六歳）

名義　妙法寺
（住所　横浜市戸塚区戸塚町七七二一四）

妙法寺　太郎　様

※ご法要の申込は、ホームページからでも行えます。
※ご法要は御命日より前に行うのが良いとされています。
※お申込はお早めにお願い致します。

◆「普賢三宝荒神」様の御札は年内中に

お台所にお祀りします「普賢三宝荒神」様の御札は12月1日～30日迄、寺務所でご用意しております。

◆12月30日～1月7日まで墓参用のお花を販売しています

年末のお墓参りでは、ご先祖様に一年の無事への感謝の気持ちを伝え、
年始には今年一年の安泰を祈りましょう。

1対　　1，500円（お線香付）
1束　　750円

※数に限りがありますので、在庫状況などはお問い合わせください。

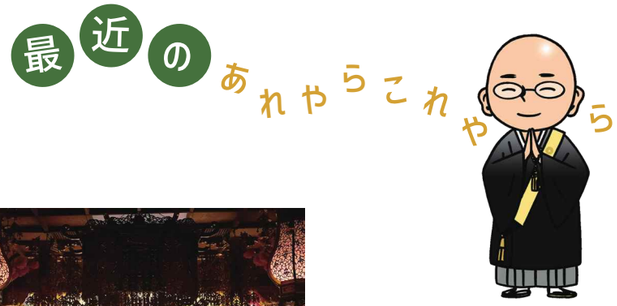
住職はこんな仕事もしています

日蓮宗から「寺院問題対策委員会」の副委員長というお役目をいただいております。活動内容としては日蓮宗にある全国5000ほどの寺院のなかで、700ほどのお寺には専任の住職が不在で、近隣に住むご住職が兼任してお寺を守ってくれています。地方の過疎化が進むなかで、今後も兼任住職が増えることを鑑み、そのような寺院を今後どのように護持していくかを検討しています。

戸塚区の保護司としても活動しています

若いお坊さんたちが研修に来ました

10月には、神奈川県仏教青年会(宗派を超えた神奈川県の若いお坊さんの会)、日蓮宗名古屋青年会（名古屋の日蓮宗の若いお坊さんの会）が、「地獄VR」や妙法寺のさまざまな取り組みを学びに来寺されました。研修のなかで若いお坊さんとディスカッションして、今後のお寺のあり方など議論を深める良い機会をいただきました。



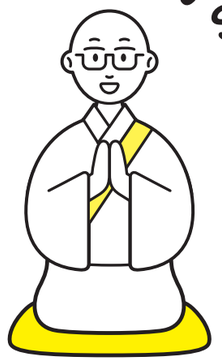
暗闇の中でのお題目

11月5日（日）の夕方から宗祖日蓮聖人御入滅の報恩会を執り行いました。今回初めての試みとしてお題目を唱える間は照明を落とし、暗闇のなか皆で団扇太鼓を叩きながらお唱えしました。幻想的な暗闇の中で集中力が増し、皆さんもいつもより大きな声で無心に唱えている姿が印象的でした。これからも継続しようと思います。

お焚き上げしました

古い卒塔婆や古いお札・お守・お位牌など、年に2回お焚き上げ供養を営んでいます。塩、米、酒を撒いて清めの作法を行い、懇ろな読経と木剣祈祷によって、魂を抜き、お焚き上げいたします。横浜市内でお焚き上げ供養ができるお寺も少なくなっております。妙法寺では消防署への届け出、近隣住民へ配慮をして行っております。

住職のCoffee Time



その遺言守りますか？

僧侶という立場上、遺言にまつわるできごとに多く接するなかで、旅立つ者から葬儀に関する遺言は必要なのかを考えてみました。

日蓮聖人の遺言を守らなかった弟子「日朗」

日蓮聖人が病を患い、臨終間もない61歳の時、とても可愛がっていた弟子の日朗を枕元に呼び、ひとつの紙包みを託しました。その紙包みは日蓮聖人が生涯にわたって肌身離さず大切に持ち続けていたお母さまの髪の毛であります。この髪の毛は日蓮聖人が出家された幼少の時、「もう息子には会えないかもしれない」という覚悟でお母さまが日蓮聖人に手渡されたものであると伝えられています。日蓮聖人は最期の遺言として、日朗に〝もし私が死んだ時には、この母の髪の毛を棺の中に一緒に入れて荼毘（火葬）してほしい〟と遺言されました。しかし日朗は、日蓮聖人がご入滅された時、あろうことか紙包みを棺に入れることをせず、師匠の遺言を破ってしまったのです。しかし、ご入滅から6年後、日蓮聖人の第七回忌の節目に合わせて弟子達で造られた日蓮聖人の坐像の右手に握られている払子（ほっす）（僧侶が持つ仏具）には、棺に入れて焼かれるはずだったお母さまの髪の毛が使われていました。その日蓮聖人の御尊像こそ、東京の池上本門寺の日蓮聖人像であります。このご尊像は、日蓮聖人のご生前のお姿に一番近いことから「生身の御尊像」と呼ばれています。池上本門寺の日蓮聖人にお参りするたび、永い時を経ても色あせない日蓮聖人と日朗の深い絆へ想いを馳せています。

池上本門寺の日蓮聖人像

お母さまの髪の毛を払子として持たれているお姿から親孝行を教道する「孝道示現の御尊像」とも称されております。※右手に持たれているのが、お母さまの髪の毛の払子

ある家族からの相談

先日、妙法寺のホームページを見て、とある女性が相談に来られました。話を聞くと、先日85歳で亡くなられた旦那様が「オレのお葬式は行わなくていい、遺骨も海に撒いてくれればいい」という遺言を残されたそうです。そのため、遺言を守ってお葬式は行わず火葬のみ行ったそうです。しかしその後、家族の話し合いの中で〝本当にこれで良かったのだろうか〟という心残りの思いが起こり、このご遺骨を海に撒いてしまってよいのだろうか…と、不安にかられているという相談でした。その後、ご家族も含め話し合った結果、四十九日忌法要に合わせ法号（戒名）をつけ、遺骨の一部は遺言通り海へ、残りは永代供養塔に納め、家族で手を合わせることができる小さなお仏壇を設えるに至りました。とても家族仲が良く、生前から家族を大事にされていた旦那様は「家族に迷惑をかけたくない」という理由でこの遺言を残されたのでした。

――― 家族のことを思うなら、お葬式に関する遺言なんて残さないほうが良い

遺言は守らなくても良い!?

自分の葬儀に対して「お葬式なんてしなくていい、海に撒いてくれていい」という遺言は、遺された人に負担を与えたくないという優しさからの言葉と、終焉に対しての潔さを感じさせるため、何だか自己満足に陥りやすく、遺言としてよく使われがちな言葉です。しかし実際は、遺族を惑わし苦悩させる遺言の負の遺産になっているな、と最近では感じています。そして「遺言」という言葉が持つ絶対的なイメージが同様にそれを守れなかった場合も遺族にずっと心の負担を持ち続けさせてしまう種になっているのです。

そのようなことから遺言はその文面や言葉だけを読むのではなく、その言葉の裏に秘められた「故人の思い」を読み解くことも大事であり、日朗のように遺言と違う行いも決して間違いではないのです。

（財産分与や法的に関わる遺言はこれにはあたりませんのでご注意ください）

お葬式に正解はない

今まで数え切れないほどの葬儀を見てきて良い葬儀だなと思うのは、残された遺族が故人を思い「こうしてあげたら供養になるよね」という弔いのある葬儀です。

〝いつも飲んでいたこのお酒を祭壇に飾ってあげたい〟

〝お婆ちゃんのお気に入りの洋服を棺に入れてあげたい〟

〝最後まで食べたがっていた、あのお店のお菓子を棺に入れてあげたい〟

〝生前よく聴いていた曲をかけてあげよう〟

など、お別れの場でありながらも心温まる葬儀になります。社交的で楽しいことが好きだったから豪華に賑やかにやってあげたいと思うのであればそれが正解。入院生活が長く〝家に帰りたい〟と話していたことから、手狭ながらも自宅葬でゆっくり静かに見送りたいと思うのも正解。大事なのは弔いのプロセスのなかで、〝故人のために心を尽くしたね〟という納得感であり、それによって遺族の悲しみも癒やされていくのであります。

終活でのアンケートから見えること

終活の講演では参加者の方にアンケートを取ることがあります。「自分のお葬式を豪華にやってほしいと思う人！」と聞くと100人中1人いるかいないかでほぼ皆無。「普通のお葬式がいい人！」と言うとだいたい3割くらい。「家族葬でいい人！」でも3割程。「葬儀なんてやらなくていい人！」という人も3割くらいの結果で、自分の葬儀に関しては特に要望などはなく、とにかく家族の負担にならないようにという気持ちが強い人が大多数を占めている印象です。

では、もう一つの質問です。

では、もう一つの質問です。大切な家族、仲の良い友人、お世話になった恩師など、自分にとって大事な人を思い浮かべてください。その方のお葬式について、

「葬儀はやらなくていいと思う人！」 ほぼゼロ

「家族葬でいいと思う人！」 1～2割ほど

「普通のお葬式がいい人！」 4割くらい

「豪華にやってほしい人！」 4～5割くらい

平均的な数字ではありますが、だいたいこのようなアンケート結果になるんですね。自分のお葬式は質素で何ならやらなくたっていい。でも自分にとって大事な人のお葬式はちゃんと豪華にやってもらいたい。このアンケート結果はとても示唆深い結果だなと感じます。

遺言よりも大事な終活とは ―――

このような事から終活で大事なのは自分のお葬式について遺言を残す事ではなく、残された時間で善き行いをし、周囲の人々と良好な人間関係を築き、感謝の心で残りの人生を豊かに生きる事です。そのように生きる事によって、心配しなくとも残された人達が、自分たちのできる範囲で、故人の思いに叶った葬儀を行うのです。

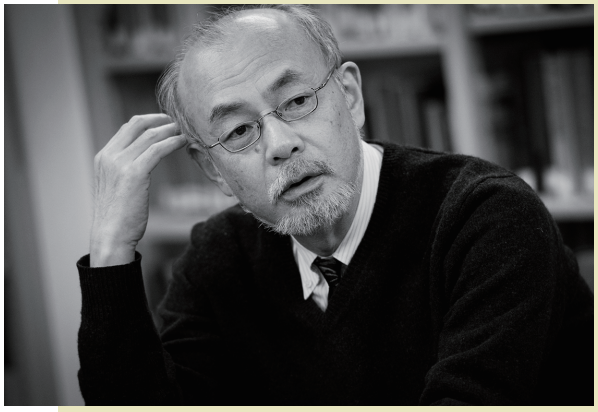
あなたの最期はあなたの生き方によって他者がちゃんと決めてくれるのです。なので過度な心配はせず、明日から残りの人生を他者への感謝の心で生きていくことを大切にしてくださいね。

ご寄付目標達成しました

目標金額としておりました1,600万円も皆さまからのご支援により、おかげさまを持ちまして無事に目標金額に達成することができました。ご寄付をいただきました皆さまには心より感謝申し上げます。また、余剰金は妙法寺脇の小学校の通学路の安全対策の擁壁工事費用として活用させていただきますので、引き続き令和6年10月まで受付ております。

（返礼品の準備の都合上、３０万円以上のご寄付は令和６年１月末日をもちまして締切とさせていただきます）

12月の浄心道場は仏教学者の佐々木閑先生をお招きします



12月3日（日）

14：00　一部：供養会

15：00　二部：法話会（法話の時間は90分程を予定しています）

花園大学特任教授／佐々木 閑

様々な苦難に翻弄される現代社会において、穏やかに
生きるための知恵をブッダの教えの中からご紹介します。

令和６年の浄心道場の二部の法話会は一年間お休みします

本年は浄心道場10周年記念として「そうだったのか お坊さんと巡る日本仏教の旅」を開催し、〝ひとつのお寺で各宗派の法話が聞ける〟など、多くの皆さまからご好評のお声をいただきました。今回の浄心道場で各宗派の講師先生の法話から様々な気づきをもらうことができました。そして、時代が大きく変化するなかで仏教やお寺の役割が大きく変化していかなければならない感覚を得ました。そのようなことから、来年は新たな企画を塾考する1年とするため「2部 法話会」はお休み致します。令和7年には有意義な企画をご案内できるよう準備を進めて参ります。来年は一部の供養会に引き続き、住職のプチ法話を行いますので、ぜひご参拝お待ちしております。

※一部の供養会は開催します